

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 朝来健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	- 管内の高齢化率は養父市41.6%、朝来市37.7%と、県や全国平均より高く、要介護認定率は養父市21.9%、朝来市22.2%と県内市町で上位に位置している。両市ともに、介護度別認定者数の構成比における要支援の割合が増加している。 - ヘルパーを対象としたアンケート（R4・R5）において、訪問介護利用者の食・栄養（エネルギー・たんぱく質の確保、体重等の把握）について、意識している者の割合は、R4年度から全体的に低下していた。高齢者の生活を支える専門職への継続的な支援体制（栄養士等に相談できる体制）が必要である。 - 但馬圏域では、糖尿病患者数や糖尿病性腎症による人工透析患者数が年々増加している。 - 但馬圏域では、食習慣を改善することに関心がない（改善するつもりがない）と考えている者の割合が半数を占めており、全県と比べても高い。
今年度の推進方策	地域住民の生活習慣病や低栄養の予防・改善に向けて、「情報へのアクセス」「食品へのアクセス」双方の視点から対策を検討する。
成果	関係機関・団体における生活習慣病や低栄養・フレイル予防に関する取り組み状況や栄養士への相談体制等について、把握・整理できた。また、幅広い世代に生活習慣病や低栄養予防・改善に関する情報を発信するとともに、食品関連事業者との連携に向けた実態把握ができた。
今後の方向性	今年度把握した内容を踏まえて、生活環境や健康関心度を問わず健康的な食生活を送ることのできる食育推進体制を関係機関・団体と連携して模索する。 また、効果的かつ持続的な食育推進体制を整備するためには、人的資源（管理栄養士・栄養士）の確保も重要と考えられることから、地域栄養士会等との連携も進める。

2 会議の開催状況

実施日時	令和7年3月6日（木）9:30～11:30
参集者 （団体数 及び人数）	養父市健康医療課1名 朝来市健幸づくり推進課2名 養父市いずみ会1名 朝来市いずみ会1名
協議内容	情報交換・協議 ① 各市・いずみ会におけるフレイル予防や生活習慣病予防・改善、その他健康課題（女性のやせ等）に対する取り組み状況等について ② 「中山間地における移動販売事業者を対象とした健康的な食環境づくりに係る実態調査」に基づく今後の取り組みの方向性について
今後の方策	地域における健康的な食環境の整備に向けて、関係機関・団体（上記の参集者に加え）の会議への参加を呼びかけ、各々のニーズ把握や実効性のある取り組みの検討ができる場の設定を検討する。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	フレイル・糖尿病予防・改善に係る普及啓発 及び地域に密着した健康的な食環境づくりに向けた実態把握		
対象及び 参加者数	①県和田山庁舎来庁者・職員等 ②食生活改善推進員（いずみ会）14名 ③管内移動販売事業者 4事業者		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	①令和6年10月 （ひょうご食育月間） 兵庫県和田山庁舎 県民ホール	働き世代～高齢世代を対象とした生活習慣病及び低栄養予防・改善のための情報提供（パネル展示、リーフレット配布）	朝来健康福祉事務所
	②令和6年1月28日 9:30～10:30 朝来健康福祉事務所 栄養指導室	南但いずみ会中央研修会における糖尿病の基礎知識及び予防のための食生活に関する講話	朝来健康福祉事務所 南但いずみ会
	③令和7年2月	中山間地における移動販売事業者を対象とした健康的な食環境づくりに係る実態調査（及びリーフレット配布）	朝来健康福祉事務所
成 果	【成果】 ① 世代を問わず、健康に必要な情報（適正体重や食事のポイント）を一目で理解できるようパネルを作成・展示を行った。また、フレイルや健康づくり関連のリーフレットを持ち帰る観覧者も一部おられた。 ② 参加者の講話内容の理解度・満足度は高く（下記参照）、「血液検査の結果で自分の状態を知ること大切」、「糖尿病の機序や食事について勉強になった」等の感想がみられた。また、参加者全員が「今後のいずみ会活動に生かせると思う」と回答したことから、今後はいずみ会員から地域住民への情報波及が期待される。 ③ 移動販売事業の実態（基本情報）や利用者の健康に配慮した取り組みに対する意識・現状を把握できた。また、当所や県作成リーフレットを用いた利用者への普及啓発の協力が得られた（4/4事業者）。 【評価指標と目標値及び達成状況】 ① リーフレット配布 20部（延べ枚数） ② 参加者の満足度「とても満足」「満足」 93%、 理解度「とても理解できた」「理解できた」 100% ③ 健康に配慮した取り組みの必要性を「感じている」「とても感じている」移動販売事業者数（移動スーパー）：4/4（100%）		
今後の課題	健康な生活を続けるために必要な情報・食品を両方入手することが難しい地域住民（買い物難民等）への対策も必要であるため、そのような住民と関わりのある関係者・機関との連携も進める必要がある。		

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

誰もが健康に生活することができる地域を目指して

地域の現状

- ① 管内の高齢化率は、県・国より高い。
（R6 養父市 41.6%、朝来市 37.7%）
- ② 要介護認定率が県内市町の中でも上位に位置。
介護度別認定者数の構成比をみると、養父市・朝来市ともに要支援の割合が増加傾向。
- ③ 但馬圏域では、糖尿病患者数や糖尿病性腎症による人工透析患者数が年々増加。
- ④ 但馬圏域は、自身の食習慣を改善することに関心がない者の割合が全県と比べて高い。

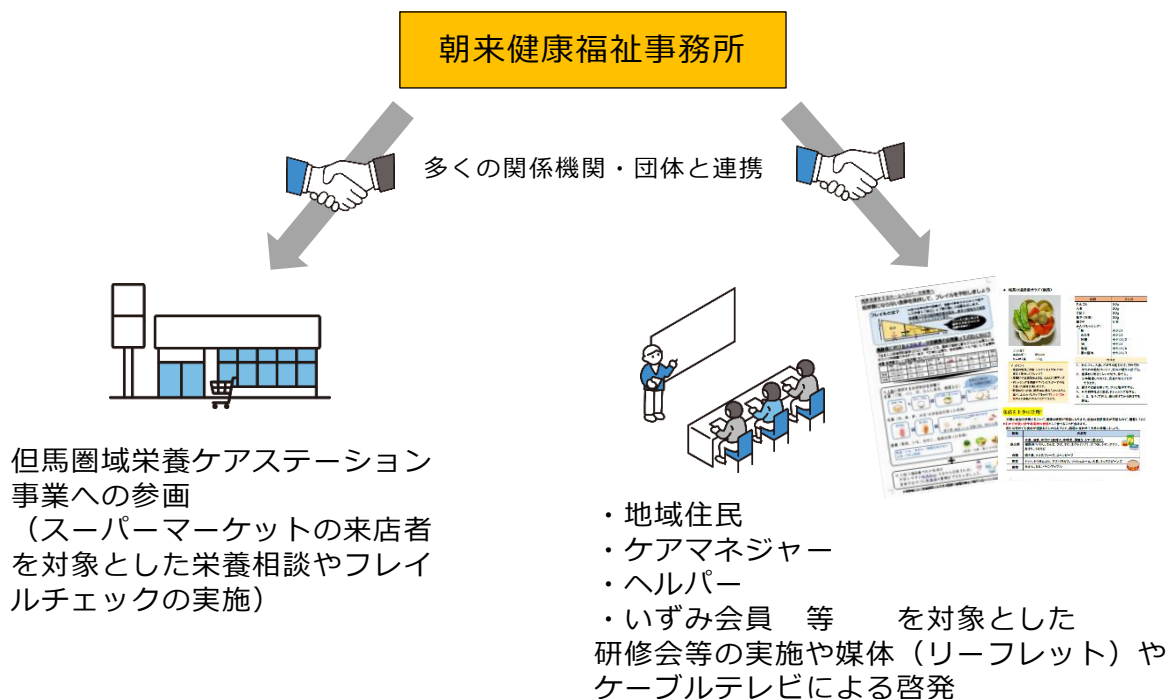


これまでの取組

令和元年度～令和5年度

**フレイル対策をテーマとして、
高齢者や高齢者の生活を支える関係者を対象とした
実態把握や食事・栄養面を中心とした普及啓発
を実施してきました。**

【普及啓発の事例（一部）】



令和6年度の取り組み

取組①

ひょうご食育月間における普及啓発

働き世代～高齢世代に向けたフレイル・糖尿病予防のための「バランスの良い食生活」に関するパネルを作成し、兵庫県和田山庁舎の県民ホールにて展示しました。



取組②

いずみ会員（食生活改善推進員）への情報提供（講話）

いずみ会員 14 名を対象に「糖尿病の基礎知識や予防のための食生活」について、朝来健康福祉事務所の管理栄養士が講話を行いました。

「地域での活動に講話の内容を活かしていきたい」という参加者の感想もいただき、今後もいずみ活動を通じた地域住民への情報発信が期待されます。

取組③

移動スーパーを対象とした健康に配慮した取り組み等の実態把握

高齢化率が高く、スーパーマーケット等が都市部と比較して少ない管内においては、移動販売が大切な買物手段である住民が一定数存在すると考えられます。誰もが健康的な食生活を送るためには、必要な情報を得る機会や健康に配慮した食品を選択できる機会が必要ですが、移動販売利用者周辺の実態は不明でした。

そこで、移動スーパーを展開している事業者を対象とした実態把握を行った上で、今後の連携・取り組みを検討することになりました。

【結果（一部抜粋）】

- ・最も多いと考えられる利用者の年代・性別は、**70代以上・女性**
- ・いずれの事業者も、ほとんどの種類の食品を取り扱っている。その中でも弁当・惣菜は、購入頻度の高い食品の1つであった。
- ・いずれの事業者も健康に配慮した取り組みの必要性を感じている。

（たんぱく質が摂れるよう使用食材を意識する、商品陳列の工夫（通常商品と減塩商品を並べて陳列）等、既に取り組んでいることもある。）

※管内に拠点のある4事業者様にご協力いただきました。



「調理等の手間が少ない」ことが、利用者の食品選択の1つのポイントと考えられる